

第31回「食」と「漁」を考える地域シンポ
サンマ資源の国際管理と今期の来遊動向

共催：(一財)東京水産振興会・(一社)漁業情報サービスセンター・
本州サンマ産地流通対策協議会

後援：(予定)気仙沼市・気仙沼漁業協同組合・気仙沼水産復興グループ・
全国さんま棒受網漁業協同組合

と き：2015年8月11日(火) 14:00 - 17:20

と ころ：サンマリン気仙沼ホテル観洋

(気仙沼市港町4の19 電話：0226-24-1200)

コーディネーター：二平 章(漁業情報SC・茨城大学人文学部)

◇プログラム◇

主催者挨拶：西本真一郎(東京水産振興会振興部長) 14:00 - 14:15

挨拶：佐藤亮輔(本州サンマ産地流通対策協議会会長・気仙沼漁協組合長)

来賓挨拶：菅原 茂(気仙沼市長)

趣旨説明：コーディネーター

●特別報告：サンマの国際的管理と流通をめぐる動き

1. 北太平洋漁業資源保存条約の発効とサンマの国際管理 14:15 - 14:45

田中健吾(水産庁資源管理部首席漁業調整官)

2. 報道番組制作から見たサンマの国際動向 14:45 - 15:15

浅川雄喜(NHK 釧路放送局記者)

3. 今年行われた公海サンマのロシアへの洋上輸出 15:15 - 15:35

阿保純一(水産総合研究センター開発調査センター研究員)

●話題提供：サンマ・サバ・イワシの来遊動向をさぐる

1. サンマの漁期前分布量調査からみた今期の来遊動向 15:35 - 16:05

中神正康(水産総合研究センター東北区水産研究所主任研究員)

2. マサバ・マイワシ太平洋系群の資源動向 16:05 - 16:25

渡邊一功(JAFIC 漁海況部漁況グループリーダー)

●総合討論： 16:30 - 17:20

司会：コーディネーター

ゲストコメンター：ウラジーミル・ツルーポフ(ロシアサブサングループアジア支社)

●交流会：会場 サンマリン気仙沼ホテル観洋 17:30 - 19:00

会費 3,000円 (裏面もご覧ください)

■開催趣旨■

サンマは日本の秋を象徴する味覚であり、以前は日本の 200 海里水域での漁獲が大半を占めていた。しかし、近年、公海上での外国船の漁獲が 18 万トンを超える漁獲となり、また、昔から缶詰原料魚として利用していたロシアに加えて、近年、韓国、中国、ベトナムでのサンマ消費需要が増大の傾向が見られる。明らかにサンマは国際的商品化の道を歩み始めていると見て良い。そのような中、この 7 月には北太平洋漁業資源保存条約が発効し、サンマは国際的資源管理の時代に入ることになった。そこで、本シンポジウムでは、北太平洋漁業資源保存条約をめぐる関係諸国の動きを探ると共に、今期のサンマの来遊動向および、近年、増加傾向にあるサバ、イワシの資源動向について議論する。

■第 31 回地域シンポ 参加申し込み■

参加希望者名、連絡先等、必要事項をご記入の上、下記宛先まで FAX、もしくはお電話、メールにてお申し込みください。参加申込は、8 月 4 日（火）までお願いいたします。

※シンポジウム、交流会（参加費 3,000 円）への参加について、必ず欄内に○×をお願いします。なお、参加申込は先着順にて受付いたします。

○気仙沼漁業協同組合（熊谷宏一） 宛
 FAX：0226 - 23 - 3406 電話：0226 - 23 - 3400
 E-mail：kou-kumagai@kesenuma-gyokyou.or.jp

氏名		所属先 部署名	シンポ ジウム	交流会
①				
②				
③				
代表者 連絡先	(ご住所) 〒			
	(お電話番号)			
	(FAX番号)			
	(メールアドレス)			
@				

※ご連絡する際に必要となりますので、電話番号と E-mail アドレスを必ずご記入ください。今後、シンポジウムやイベント等のご連絡に使用させていただきます。 ※定員に達した場合、期限よりも早く受付を終了する場合がございます。